

式辞

4月は、麦の秋と書いて「麦秋」とも呼ばれます。宇佐や中津、豊後高田、豊後大野などではこの後、麦がしだいに色づき、5月の収穫を迎えます。収穫へと向かう季節を桜、菜の花などが彩り、気持ちも華やぎます。

新入生の皆さんの入学を、大分高専教職員一同、心からお祝いします。おめでとうございます。

本科新入生160名、第3学年編入生1名、第4学年編入生1名、本科を卒業し専攻科入学された33名の皆さんは、ここ大分高専で「人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現力を有する技術者」となるべく、自らの足で歩むこととなります。

2030年にかけて日本の労働人口の49%が就いている仕事は、人工知能やロボット等で代替可能になるとされます。そのような時代で求められる技術者とは、どのようなものでしょうか。それこそ、本校の教育が目的とする「人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現力を有する技術者」なのです。

そのためには、科学や工学の基礎を獲得し、技術者としてのセンスとコミュニケーション能力を生かして、専門工学の知識を社会の中で活用できるようになることが必要です。この大分を、日本を、そして世界を、皆さんの手で、もっと楽しく豊かなものへと変えて行くことを強く願います。

本校では、例えば、「アグリエンジニアリング教育」を導入しています。そこでは、農学の素養をもった技術者の養成を目指します。農学と工学との協働・連携により、社会をより豊かにできるでしょう。

また、本校では、災害レジリエントマインドの養成にも取り組んでいます。「レジリエント」とは、「柔軟性がある、回復力のある」と言う意味です。災害による社会の破壊に対応するため、エンジニアの責務を理解して専門技術の高度化で貢献しようとする強い意志、すなわち災害レジリエントマインドを養い、社会の幸せを守ってください。

皆さんは、今年の1月1日の能登半島地震のニュースをどのような思いで聞きましたか。私はその前の日、31日まで石川県にいました。私が目にした風景は、その姿を変えてしまいました。

2011年の東日本大震災の津波映像には今も心をえぐられます。震災の2年後、私は、被災した女川町を視察しました。津波で破壊された建物がすべて撤去された更地には、津波によって横倒しになった交番だけが残されていました。

それら自然災害の中で数多くの方がなくなり、今もそこから立ち上がろうとする方がい

ます。

皆さんには、社会を幸せにできる技術者に、なっていただきたい。

大切なのは、愛の精神です。

皆さんは、感じ方もそれぞれです。好きな食べ物、耳を傾ける音楽など、違って当たり前なのです。その違いを互いに認め、慈しむ。そして、その輪を広げていきましょう。

新入生の皆さん。人を愛し、社会を愛しましょう。そして、皆さん自身を、皆さんの未来を慈しみましょう。あなたの「愛と慈しみ」は、必ずや世界の平和と幸せ、地球の持続可能な未来へとつながるはずです。

保護者の皆さまに、あらためてお祝い申し上げます。皆さんのお子さんは必ずや、人を愛し、社会を愛する技術者となるものと信じています。ただ、その過程では、時に躓き、時に誤ることもあるでしょう。私たち教職員は、保護者の皆さまとともに、学生により添い、支え、導いて行きたいと思えます。どうぞ本校教育へのご理解とご協力をお願いいたします。

新入生の皆さんの楽しい学生生活と、輝かしい未来を心から願い、式辞といたします。皆さんのこれからは、笑顔とやりがいと溢れるものとなりますように。

令和6年4月4日

独立行政法人国立高等専門学校機構

大分工業高等専門学校長 坪井泰士